

## 会議録：「令和1年度第1回恵那市産業振興ビジョン検討部会」

---

日時：令和1年8月28日（水）13：30～15：30

場所：恵那市役所

参加者：別紙参照

### 1. 開会

事務局：「先日開催した森づくり委員会でも議論していただいたが、市内で木材利用を増やすための消費の仕組み、建築で使ってもらうために市としてやるべきことや事業者の皆さんがやるべきことを考えたいので忌憚ない意見を願います。」

### 2. 報告事項

事務局：P1～5を説明。

### 3. 検討事項

事務局：「6/14に開催した恵那市産業振興会議で今後検討してほしい内容として3つの項目が出された。『担い手対策として、体験から定着へつなげる仕組み作り』『山を維持しながら、資源として活用する取り組み』『地域全体での木材活用』の3つ。」

#### <主な意見>

《「担い手対策として、体験から定着へつなげる仕組み作り」についてどう考えるか》

- ・ P8にあるように、情報発信により恵那市の林業に興味を持っていただき体験ツアーで実際に体験していただく。その中から山仕事手習い塾でチェーンソー講習など、より深い林業体験をしていただきインターンシップへつなげていくという取り組みを進めている。
- ・ 市から委託を受けて「森と木のシゴト」見学体験プログラム（別紙参照）を企画した。市内の林業関係事業者の皆さんに協力いただき、申込者が希望する見学プログラムをアレンジする。初の取り組みなのでどうなるか分からないが幅広い人材に来てもらいたい。
- ・ 体験プログラムの参加者に恵那市の林業現場で人手を求めていると話す。
- ・ 岐阜県がやっている森のジョブステーションとも連携すべき。
- ・ 若手技術者が2人ほしいが、経営母体が安定していない。環境税を活用して安定経営を支援するような取り組みをしてほしい。採用して3年は補助金があるが、1人前になるには5年～7年必要。
- ・ 5年～7年目で辞める人が多い。収入が少なくても続けたいと本人が思っても家族が反対する。出産を機に辞めてしまう。外国人の雇用も検討し始めている。浜松市では伐採作業に外国人を雇っている。

《「山を維持しながら、資源として活用する取り組み」についてどう考えるか》

- ・ P9のとおり、環境譲与税を活用して取り組みを進める。

《「地域全体での木材活用」についてどう考えるか》

- ・ 市内でも木材流通への取り組みとしては、P13にあるように、「エコ住宅の推進」「木質バイオマス事業の推進」「木工」の3つの取り組みを進めようと考えている。

- ・市内産の木材の利用を増やすにはどの分野でどれくらいの需要があって、どれくらい供給できるかなど総合的に考える必要がある。
- ・設計士が建築でどの木材を使うか決定するのであれば設計士と交渉できないか。
- ・恵那市周辺にはほとんど設計士がいないのでは。
- ・工務店にヒアリングし可能性を探ることとする。
- ・全国的に見て、木材供給量は不足している。売り先はあるが、供給ができていない状況。森林組合で出荷量を増やせるか。
- ・大量に増やすのは無理。増やしたくても人がいないので木を切れない。
- ・市営住宅を木造で高性能なものに造り換える。秋田県では木造の高性能市営住宅を安い家賃で貸し出している。入居期間は5年以内なので、体験してもらって同じような住宅を建ててもらう。
- ・ボイラーでの活用などはどうか。
- ・薪は供給先がなかなかない。

#### 《オリジナル木工製品の開発についてどう考えるか》

- ・P9 のとおり「森のチエブクロ」という企画をした。神戸市で六甲山の木を使ったユニークな商品を開発しているヤマサキマサオさんに来ていただき、講演いただく。これを機に森と木を生かす方策についてアイデア出しをし、次年度以降、商品化へつなげたい。
- ・名古屋城の改修工事で岩村城の木を使った。周辺の丸太をもらったので「城主木」でオリジナル製品を作りたいと考えているがデザインが難しい。
- ・岩村町は去年の「半分、青い」の影響で5~6軒店が増えた。店を増やすのが先か、客を増やすのが先かという議論があるが、売れて生産が追いついてくるので、まずは売ることを進めるほうがいいのでは。
- ・工務店にヒアリングを行い、事業を考えていきたい。

#### 4. 次回検討部会の開催について

事務局：「次回は10月上旬を予定している。」

その他としてIoT活用支援セミナーと副業人材活用事業について説明。

#### 5. 閉会

## ■まとめ

### <「担い手対策として、体験から定着へつなげる仕組み作り」について>

- 体験ツアーの中から山仕事手習い塾でチェーンソー講習など、より深い林業体験をしていただきインターンシップへつなげていく取り組みを実施する。
- 「森と木のシゴト」見学体験プログラムを実施し、参加者が希望する見学体験をアレンジする。
- 森のジョブステーションとも連携すべき。
- 採用して3年は補助金があるが、1人前になるには5年~7年必要。森林環境税を使って経営安定化を支援してほしい。

### <「山を維持しながら、資源として活用する取り組み」について>

- 環境譲与税を活用して取り組みを進める。

### <「地域全体での木材活用」について>

- 「エコ住宅の推進」「木質バイオマス事業の推進」「木工」の3つの取り組みを進めようと考えている。
- 市内産の木材の利用を増やすにはどの分野でどれくらいの需要があって、どれくらい供給できるかなど総合的に考える必要がある。
- 全国的に見て、木材供給量は不足しているが、人がいないため切る量を増やせない。
- 市営住宅を木造で高性能なものに造り換え、住んでもらった人に同じような住宅を建ててもらう。

### <オリジナル木工製品の開発について>

- 「森のチエブクロ」という企画をした。森と木を生かす方策についてアイデア出しをし、次年度以降、商品化へつなげたい。
- 「城主木」でオリジナル製品を作りたいと考えているがデザインが難しい。
- 売れて生産が追いついてくるので、まずは売ることを優先に進める。